








梅雨空と仲良く～武州古の街道を歩く  
丹波大菩薩道

実施日 2017年6月11日(日)  
 天候 曇り  
 リーダー 涌井 良明  
 参加者 涌井良明、白石恵美子、石附智江、遠井謙策、中村友子、石原勝正、徳山敬子、濱田優美子 計8名  
 費用 JR1,610円(高尾起算)、1,010円、1,870円 計4,490円  
 タイム 甲斐大和(8:35~45)福ちゃん荘(9:30~40)大菩薩峠(10:23~35)フルコンバ(11:05~10)ノメダワ(11:58~12:30昼食)追分・十文字(13:12~20)藤タワ(14:00~15)丹波BS(15:20~45)奥多摩駅(16:50~54

梅雨空ながら雨無し・風無し・気温良し・眺め時々あり、それと登り殆ど無し、但し、距離長めの歩きを楽しめた??

は上日川峠から更に登山者を掻き分け(程でもないか)て福ちゃん荘前まで乗り付ける。さすが2,000円近くに一気に登ったからか、を降りた瞬間に山の匂いとヒンヤリした空気に触れる。

下の上日川峠Pはで溢れていたが小屋付近にも峠に向う登山者の姿が多い。我々も今日の最初で最後の大菩薩峠への登りにかかる。知っての通り完璧に整備された道をゆっくりと登る、40分程で混み合う峠に着いた。SUBARU登山部?の団体さんと写真を撮りあって一休み後、丹波方面に向うことにする。

ほぼ下りなのは分っていたが結局丹波BSのゴールまで殆ど登りらしい登りはなく汗もそれほどかかずに快適な?山下りを楽しむことになった。

峠から丹波方面に一步踏み出した途端にさっきまでの賑やかさは一瞬でなくなり、我々だけの山になり、その後丹波の街まで

峠から丹波方面に一步踏み出した途端にさっきまでの賑やかさは一瞬でなくなり、我々だけの山になり、その後丹波の街まで



誰とも会うことはなかった。新緑と名残のツツジが迎えてくれる良く踏まれた道をのっけから下りモードとなつてグングンと下って行く。今回も優しい緑に和みながら進む。尾根筋だが、道は東側に付けられたトラバース道を行き、再び稜線に出会った鞍部がフルコンバだ。古木場と書いて、武州と甲州の荷渡し場との説もあるようで、鞍部に簡単な小屋掛けがあったとのことだ。

なるほど小広い鞍部にはベンチもある。稜線に沿って付けられた道を下りながら辿り、小一時間でなだらかな展望の良い鞍部ノメダワに出る。丁度昼時なのでベンチに陣取ってランチである。動かない



いでいると少し寒さを感じる様な薄曇りの天気だが微風も心地良い。

この先道は稜線を外れほぼ甲州側を巻くように付けられている。緩く登っている箇所もあるがほぼ平坦の道で、十字路

になっている追分(十文字)に。道は尾根を乗越して一旦谷に向って下り、何回か小沢を渡り返して、途中から再び山腹を巻くように進み藤ダワに着く。ここも十字路で直進は高尾天平を超して越ダワから丹波へ、左右は共に丹波に至ると記されている。一休みして我々は左へ貝沢経由の丹波直行ルートを下る。



明るい森の下りから沢筋を棧道、階段、橋など整備されている(なかったら難路になる箇所かも)道を下り林道にでて山道も終り、丹波川を吊り橋人道で渡って丹波のバス停に帰着。行動時間5時間50分、標高差登り335円下り1,250円だった。

美しい森の山下り、たまにはこんなのもアリですね。

美しい森の下りから沢筋を棧道、階段、橋など整備されている(なかったら難路になる箇所かも)道を下り林道にでて山道も終り、丹波川を吊り橋人道で渡って丹波のバス停に帰着。行動時間5時間50分、標高差登り335円下り1,250円だった。

美しい森の山下り、たまにはこんなのもアリですね。

美しい森の山下り、たまにはこんなのもアリですね。

(記&写真・涌井 良明)

